

# 令和4年度 南城市保幼小連携事業実践報告

南城市教育指導課・子育て支援課

## 1 目的

- (1) 幼児期の発達や学びを小学校教育へ滑らかに接続すると共に幼児教育の充実を図る。
- (2) 小学校教育への接続が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する等の連携を図る。
- (3) 南城市内幼稚園を結節点として、各地区の保育施設（玉城・知念・佐敷・大里地区・法人保育園・認定こども園等）と小学校の連携体制を構築する。

## 2 実施場所

南城市立幼稚園、南城市立小学校、公私連携型認定こども園、南城市内保育所・認可こども園、

## 3 取組内容

- (1) 南城市内全校区で保幼小連携の体制を構築する。
  - ・各校区で年間計画を立てる。各校区の実情を踏まえ独自性のある取組みをする。
- (2) 幼稚園、保育所、認可こども園、小学校と調整し、幼児・児童の交流会を実施する。
  - ・幼児・児童間の交流会を通して双方に互惠性のある連携にする。
- (3) 保育参観、授業参観、接続期のカリキュラムの作成等の合同研修会を企画、実施する。
  - ・保幼小職員の幼児教育と学校教育について相互理解を深める。
  - ・幼児期の発達や学びが小学校へ滑らかに接続し連続性のある連携をする。

## 4 保幼小連携の必要性

- 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の段差が大きすぎる。
- 幼児期では、その段差を幼児自身が乗り越えられる力を育てることが大事。
- 小学校では、幼児期の育ちを土台にした小学校教育をスタートしていく必要がある。

## 5 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るために

- 幼児の発達や学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の可視化と共有をする事を通して接続する。又、接続期カリキュラムを通して滑らかな接続をする。
- 市内の子ども達が「どの小学校へ行っても安心して学ぶ」「どの幼児施設でも同じ教育を受けて安心して小学校へ」と見通しをもち、どの子も楽しく学ぶことができるようにする。

## 6 令和4年度 南城市が目指す目標

- 接続期カリキュラムを各施設で実施し、各小学校区で協働・検証・改善する。
- 各幼児教育施設（保、幼、こ）はドキュメンテーションを作成する。成果物として実践事例集を作成し持続可能を目指す。

## 7 保幼小連携の実際

### (1) 全体的な取り組み

| 回                        | 授業・保育の様子   | 内容・(方法)  | 参加者・備考   |
|--------------------------|--|--|--|
| 1                        |   | <p>◎公開授業〈百名小学校〉4月15日</p> <p>「授業を通してスタートカリキュラムの検証」</p> <p>公開授業 8:15~10:00</p> <p>指導助言及び講話 14:30~15:45</p> <p>講話: 学びにつなげるスタートカリキュラムの充実</p> <p>講師: 宮城 利佳子氏</p>            | <p>公開授業は一部の関係者のみ参観</p> <p>合同研修会はオンラインオンデマンド配信。</p> <p>視聴者名 28名</p>                                     |
| 2                        |   | <p>◎公開授業〈馬天小学校〉5月20日</p> <p>公開保育 10:40~11:25</p> <p>合同研修会 15:30~16:45</p> <p>グループ協議7グループ(事例を基に)</p> <p>講話: 「幼児期からつながる生活科」</p> <p>~主体的・対話的で深い学び~</p> <p>講師: 宮城 利佳子氏</p> | <p>公開授業関係者のみ参加者: 40名</p> <p>保育園・こども園 13名</p> <p>幼稚園・小学校 18名</p> <p>行政 11名</p> <p>*オンデマンド配信</p>         |
| 3                        |    | <p>◎公開保育〈松の実こども園〉8月2日</p> <p>公開保育 8:50~10:00</p> <p>合同研修会 10:30~12:00</p> <p>当園の保育動画を観て育ちを語り合う</p> <p>講話: 乳幼児期の育ちを小学校へつなげる</p> <p>講師: 宮城 利佳子氏</p>                      | <p>公開保育者を限定する参加者: 58名</p> <p>保育園・こども園 19名</p> <p>幼稚園 3名、小学校 12名</p> <p>中学校 2名、行政 22名</p> <p>その他 3名</p> |
| 4                        |   | <p>◎実践発表会〈大里北小学校〉8月15日</p> <p>合同研修会 15:30~16:45</p> <p>「スタートカリキュラムの実践発表」</p> <p>発表者: 古堅 桂子氏 大里北小学校</p> <p>指導助言及び講話: 興儀 毅氏氏</p>   | <p>参加者: 43名</p> <p>保育園・こども園 14名</p> <p>幼稚園 5名、小学校 12名</p> <p>その他 2名、行政 15名</p> <p>オンデマンド配信</p>         |
| 5                        |   | <p>◎公開保育〈バンビ保育園〉10月20日</p> <p>公開保育 8:50~9:50</p> <p>指導助言及び講話 10:30~12:00</p> <p>グループ協議7グループ(保育参観の視点)</p> <p>講話: 乳幼児期の保育を小学校へつなげる保育</p> <p>講師: 宮城 利佳子氏</p>              | <p>参加者: 42名</p> <p>保育園・こども園 22名</p> <p>幼稚園 2名、小学校 5名</p> <p>その他 5名、行政 8名</p>                           |
| 6                        |  <div data-bbox="284 1870 853 1982" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>幼児が作成した保育ドキュメンテーション</p> </div> | <p>◎公開保育〈大里北幼稚園〉11月24日</p> <p>公開保育 8:50~10:00</p> <p>合同研修会 10:40~12:00</p> <p>講話: アプローチカリキュラムについて</p> <p>~幼児期で遊び込むことの大切さ~</p> <p>講師: 宮城 利佳子氏</p>                       | <p>参加者: 44名</p> <p>保育園・こども園 14名</p> <p>幼稚園 7名、小学校 1名</p> <p>その他 8名、行政 14名</p>                          |
| 3月「保育ドキュメンテーション実践事例集」の発行 |  |    |  |

(2) 公開授業・公開保育の振り返り（公開授業実施校・公開保育実施園より）

|   |                         |   |
|---|-------------------------|---|
| 第1回4/15<br>百名小学校<br>スタート期の<br>授業参観                | 成 果                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・南城市接続期カリキュラムの基本方針（平成3年9月作成）を受け、新たにスタートカリキュラムを作成し、取り組み始めることができた。幼稚園、保育所での遊びを生かしながら、登校後の時間を過ごせるように、教師が意識して取り組んでいる。</li> <li>・のんびりタイムやなかよしタイムを取り入れることで、昨年に比べ登校しぶりが少なくなった。一年生の遊びのコーナーで上級生も一緒に遊ぶ姿があり、自然に異年齢の交流の場になっている。</li> </ul>   |
|   | 連携だより<br>第1号発行<br>5月13日 | <p>課 題</p> <p>幼稚園や保育園と変わらないリズムで自由に遊ばせることが難しい。これまでの45分授業の展開から、短い時間で刻む授業や合科的な授業が難しい。</p> <p>改善策</p> <p>今年度は実践を通して、児童の実態を把握しながら、国語や音楽、図工など合科的に取り組んでいく。</p>   |
| 第2回5/20<br>馬天小学校<br>幼児期からつ<br>ながる生活科              | 成 果                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートカリキュラムの取り組みにより、早登校する子が増え、泣いて登校する子がほとんどいなくなった。子ども同士の会話が増え、集団遊びなどがスムーズにできていた。</li> <li>・子どもたちにそれまでの体験などを聞いて、どんなことをやりたいのか聞き出して授業展開を計画することができた。</li> <li>・見つけたことを伝える手段や方法を子どもたちが主体的に考えて、地図を作ったり、写真を撮ったり、メモをとったりして発表することができた。</li> </ul>   |
|   | 連携だより<br>第2号発行<br>7月15日 | <p>課 題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見つけたことを伝え合う場面で、タブレットの操作に集中してしまい、友達の発表を注意深く聞くことができなかった。</li> <li>・安全確保のために図工室や家庭科室に教師を配置すると、子どもたちの様子が見えない場面がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で探検している子の安全管理。</li> </ul> </li> </ul> <p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表するときは、ペアやグループなどの小集団でさせると、緊張しないで発表できる。</li> <li>・写真を見るとどんな場所にいったのかがわかるので、教師からの問いかけに答えてもらい様子を把握できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで探検するようにさせる。</li> </ul> </li> </ul>  |
| 第3回 8/2<br>松の実こども<br>園<br>乳幼児期の育<br>ちを小学校へ<br>つなぐ | 成 果                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開保育を迎えるにあたり指導案の指摘から幼児教育を見直す機会となりました。</li> </ul>  |
|   | 連携だより<br>第3号発行<br>9月20日 | <p>課 題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが遊ぶ環境を作りすぎないようにする。遊びの道具が不足していることを子ども達が気づくようにする。</li> <li>・保育者が日頃から子どものつぶやきを拾う意識を高める行動をとる。「どうしらいいかな」など考えさせる問いかけを増やすようにする。子どもの発言を否定せず受容する。子どもの思考を引きだす問いかけをする。</li> <li>・子どもが主体の「遊びこむ」保育実践を計画する。</li> </ul> <p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳児～2歳児の朝の会は、子ども達が集中できる時間5分以内に終了する。</li> <li>・絵本の読み聞かせ、全体で歌う儀式的な取り組みは、遊びの中で取り入れる。</li> <li>・整えない環境構成、遊びの展開に繋がる道具を揃える。子ども達が対話しやすい雰囲気作り、子どもの発言に直ぐに答えを出さない保育者の心構え</li> <li>・体育座り禁止。「南城市の小学校でも指導していない」と助言があった。</li> </ul> |
| 第4回8/15<br>大里北小学校<br>スタートカリ<br>キュラムの実<br>践事例発表    | 成 果                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度からの理論研修や公開授業(馬天小学校の学校探検) 公開保育(松の実こども園)を通しての気づきや学びを授業実践に生かすことができた。</li> <li>・昨年度や一学期の実践を振り返ることで與儀参事や講師の利佳子先生から助言いただいた事を二学期からの授業改善に生かせると確信している。</li> <li>・スタートカリキュラムを更に研修し深めていきたいという意欲が沸いた。</li> </ul>   |
|   | 課 題                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月と3月の変容を児童自身が自覚できる授業実践と学習のまとめが必要である。</li> <li>・遊びを通して新たな遊びを生むという年間を通した継続的な実践(計画)に挑戦したい。</li> <li>・学級の学習に固定せず学級枠、学年枠を外した活動にも挑戦したい。</li> </ul>   |

|  |             |   |
|--|-------------|---|
| <p>連携だより<br/>第4号発行<br/>11月10日</p>  |             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月の「学校探検」が教師先導の「学校案内」になってしまっていることに気づいた。</li> <li>・スタートカリキュラムがその年の1年生担任だけの実践になっている。</li> </ul>   |
|  | 改善策         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での全職員によるスタートカリキュラムの研修を行う。<br/>(8月2日にいただいた資料 『幼児期の終わりまで育ってほしい姿』の読み合わせ等)</li> <li>・可能なら紙面でもいいので市内他校の実践を情報交換したい。</li> </ul>  |
| <p>第5回10/20<br/>バンビ保育園</p> <p>乳幼児期の育ちを小学校へつなぐ</p> <p>連携だより<br/>第5号発行<br/>12月9日</p> | 成果          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開保育を意識し、園のカリキュラムを見直す良い機会となりました。(子どもが主体となる保育を考えると、週2回のリトミック、幼児体育は、保育士主導になってないのかそれを含めて・・・)</li> <li>・子どものつぶやきに耳を傾け、やりたい意欲がもてるような対話的な会話を意識する事で、子ども達の、発想イメージから展開される遊びを、見守りながら時には一緒に遊び込むことが出来るようになりました。</li> </ul>  |
|  | 課題          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の利佳子先生からのアドバイスから、自然物を園庭に増やす事で、更に遊びの発展へと繋げていけたらと思います。(廃品等を利用し玩具作り)</li> <li>・週案の見直し</li> </ul>   |
|  | 改善策         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園のカリキュラムを見直す。</li> <li>・指導計画の作成でコドモンを活用する際は、話し合いを行い、子どもの姿、ねらい、内容がしっかりと記入できるような原本を作成したい。</li> </ul>  |
|  | その他<br>(感想) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前研修会に何度も来園して頂き、公開保育当日を迎える事ができました事に感謝致します。公開保育は園のこれまでの保育、そしてこれからの保育を考えていく上では、必要な事だと思います。指導課の先生方の子ども達への思いは回を重ねる度に十分に伝わりました。また、今回の合同研修会で他の職員との繋がりができ、他の施設(幼稚園)へ行く事ができよい刺激となりました。</li> </ul>   |
| <p>第6回 11/24<br/>大里北幼稚園</p> <p>アプローチカリキュラムについて考える<br/>～幼児期で遊び込むことの大切さ～</p>         | 成果          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の保育を全体で振り返り、指導案を作成することで幼児理解や環境の見直しにつながった。</li> <li>・色々な保育の捉え方・考え方・見方に気付かされ、具体的に課題が見えてきた。</li> <li>・子どもたちは、色々な人に見てもらうことで、自信を持って遊びを紹介していた。</li> <li>・自分が経験したこと、楽しかったことなどを、人に伝え、聞いてもらえる喜びを味わうことができた。</li> </ul>  |
|  | 課題          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園側として、小学校の先生方にも、子どもたちの遊びの様子を見て頂くために積極的に声をかけ、参加してもらえよう配慮が必要である。</li> <li>・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを計画する際に、相互に共通理解を深めていく必要がある。</li> <li>・遊びこむための環境(人的・物的)の再構成が必要と感じた。遊び込めていない子に目を向け、一緒に楽しめるような援助の仕方・手立てを工夫する必要がある。</li> <li>・生活面の着脱の仕方の再確認と環境への配慮が必要である。</li> </ul> |
|  | 改善策         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・申し送りの際に、是非幼稚園の様子を見ていただき、情報交換・共有できるようにする。</li> <li>・次年度も保・幼・こ・小学校の授業や保育を参観し合い、相互の理解を深め、小学校へ滑らかに接続できるようにする。</li> </ul>  |
| <p>ドキュメンテーション<br/>3月頃作成</p>  | 成果          | ほとんどの園が保育ドキュメンテーションを作成し、子ども達の育ちを丁寧に読み取るようになった。・園の玄関に掲示しているドキュメンテーションに保護者、職員等よく見ているので会話のきっかけや情報の共有になっている。  |
|  | 課題          | 限られた時間内で、どう作成するかどの園も課題に感じている。   |
|  | 対応策         | 色々な園の事例や作成方法を観たり聞いたりしながら対応していく。   |



(3) 南城市保幼小連携プロジェクト委員会

〈趣旨〉

学びの連続性を重視した保幼小連携の充実を図るため、子どもの発達や学びについて協議し接続期の教育内容や方法の見直しを行い、より充実したカリキュラムを作成し幼児期から児童期への教育の充実を図っていきます。

〈構成メンバー〉 13名

こども園長1名、保育園長3名、幼稚園教頭1名、小学校長1名、教育指導課3名、子育て支課4名

〈取組みの経過〉

第1回 令和4年4月20日(金) 13:30~15:00 会議室215 参加者13名

協議内容：令和4年度の年間計画の確認

＝令和4年度南城市が目指す目標＝

- (1) 接続期カリキュラムの実施・検証・改善。  
小学校スタートカリキュラムの検証。振り返りを実施し成果を教育指導課へ報告する。
- (2) 各小学校・幼児施設でドキュメンテーションの実施。幼稚園(4園)、保育園(18園)、こども園(6園)、実践事例集を作成し持続可能を目指す。  
・小学校(9校)に関しては令和5年度、ドキュメンテーションの作成実施をする。

決議事項：保育ドキュメンテーション実践事例集の作成について

- 市内保育所・幼稚園対象に地区ごとに研修会を実施する。5/27・5/31・6/1
- 保育ドキュメンテーションを通して保育の振り返りと保育の質の向上に役立てる。
- 構成メンバーに、教育指導課長、子育て支援課長2名を追加し15名にする。

第2回 令和4年6月17日(水) 14:00~16:00 会議室219 参加者17名

協議内容：

- 接続期カリキュラムについての講話〈與儀参事〉
- リーフレットの検討(グループ協議5名、3グループに分かれて検討)

決議事項：○3グループで協議した内容をまとめ就学時健診に保護者に配布する。

第3回 令和4年9月2日(金) 14:00~16:00 会議室215 参加者18名

協議内容：

- 幼保小の架け橋プログラムについて(文科省大杉課長の動画を視聴して意見交換)
- 令和5年度版リーフレットの配布について→就学時健診の時に配布する。

決議事項(課題)

- 動画を視聴して南城市、小学校がどのフェーズに位置するかを確認する。
- 保育所では主体的な保育を模索している途中である。保育所での取り組みをどのように保護者に「幼保小の架け橋プログラム」を伝えるか課題である。
- 幼稚園の場合は、接続期カリキュラムを小学校と一緒に作成していない。幼保こ小の職員と一緒に作成する必要があると実感している。

≪ ワクワク!! 楽しみ1年生 小学校ってどんなところかな? ≫ 令和5年度版



#### 第4回 令和4年12月13日（金）14:00～15:30 庁議防災室 参加者13名

協議内容：

- 令和4年度 保幼小連携事業の振り返り
- 令和5年度保幼小連携事業計画（案）について
- 南城市幼児教育センター「シンポジウム（案）」

決議事項：

- 次年度の保幼小連携は範囲を縮小して参加しやすい夏休みに実施する。
- 保幼小中のタテのつながりを意識し中学校の参加を推進することに努める。



## 8 成果・課題・改善策

### (1) 成果

- ①第1回、第2回の小学校授業参観から、こども園、保育園、幼稚園の公開保育第6回まで連続して学びのタスキをつなぎ、学び合う合同研修会ができた。
- ②公開授業や公開保育園に向けて指導案の作成や諸準備を幼児教育アドバイザー等と行い、実施後は講師の宮城利佳子先生から専門的な分析とご助言をいただき、学びの多い振り返りとなり、保育・教育の質の向上につながった。
- ③合同研修会後の振り返りを「保幼小連携だより」合同研修会終了後に発行する。幼児教育施設や小学校に送信し全職員で共有することができた。又、合同研修会の様子をオンデマンドで発信し視聴後の感想を回収し次回の参考に生かすことができた。
- ④保育ドキュメンテーションの実践事例集の作成を3月ごろ完成予定。  
保育ドキュメンテーションを作成する中で、保育者は子どもの学びを可視化することで、保育の振り返りができ次の保育の活動のヒントになり質の向上につながった。

### (2) 課題

- ①小学校1年生の授業参観は、各小学校区での話し合いが不十分だった。  
幼児教育施設から小学校へ“なに”を“どのように”つなぐか、双方で議論する必要がある。
- ②保幼小連携は各小学校区が中心になり実施できていない。接続期カリキュラム（アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム）の協働で作成する必要がある。
- ③保育ドキュメンテーションの作成する時間の確保が難しい。保育ドキュメンテーションの目的が十分に理解されてない幼児教育施設がある。

### (3) 改善策

- ①小学校1年生の授業参観は、小学校長をはじめ1年生担任、校区の保育園、こども園、幼稚園の職員と行政も交えて「振り返り」を実施する。  
事前で話し合いの内容や授業参観の視点を明確にしておく。
- ②令和5年度は各小学校区が中心になり保幼小連携を実施するようにする。
- ③保育ドキュメンテーション作成に目的と保幼小連携との関連についての理解を得ながら実施する。令和4年度の実践事例集を参考にし自園の保育ドキュメンテーション作成が楽しいと感じられように支援していく。

## 9 令和5年度 南城市が目指す目標

＝令和5年度の重点＝

各小学校区での研修を重視し、9小学校を中心に校区の幼稚園、保育所（園）、こども園、小学校の職員が対話を通して、幼児期の学びや育ちを小学校へつなぐようにする。各校区では関係者（小学校長・就学前施設長）の参加も必須とし、主体的に保幼小の職員が研修を深め学び合う場にする。更に中学校との連携の推進に努める。